

新入生代表あいさつ（博士後期課程）

春光うららかな季節を迎え、やわらかな風に心華やぐこの頃、私たちは埼玉県立大学大学院入学の日を迎えることが出来ました。本来であれば講堂で迎えていたであろう入学式ですが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止になってしまったことは、非常に残念です。

しかし入学式を準備してくださっていた関係者の皆様におかれましては、新入生・御家族の皆様に対する安全確保の観点から、このような苦渋の決断をしていただいたのだと思います。日頃より暖かく見守ってくださる教職員の皆様・大学関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

12年前、私は初めて埼玉県立大学の門をくぐり、現在でも切磋琢磨し合える素敵な仲間たちや、素晴らしい先生方に出会いました。卒業後は看護師・保健師としての経験を経て、現在は大学教員という立場で公衆衛生看護に携わっております。

勤務する傍ら、埼玉県立大学大学院へ進学し、仕事と研究を両立してきました。学生の実習引率をしていく中で出会う住民・療養者は、それぞれに様々な背景と抱えており、困難性を感じることも多々ありました。

より個別性の高い看護を展開するためには多職種との協働は必須であり、「連携と統合」の重要性を感じております。そして、様々な分野から共にチームとして住民・療養者のニーズに応えられた時の喜びも何度も経験することができました。相手を尊重し、共に切磋琢磨できる人格を「陶冶」していくことで、自らの看護観が広がるように思います。

一方で、医療に携わっていると、命の尊さについても改めて実感させられております。対象者の人生に関わる医療従事者は、ひとえに「傾聴する」「共感する」と主観的に対象者を捉えるのみではなく、客観的に各専門性を発揮することも強く求められています。専門職としての知識を持ち、対象者の健康課題に対峙するベストな方針・手段を選択することが求められると思います。

さらに、研究に携わる者として、問題の解明につながる知見を深め、発信するべく努力を続けていく責務があります。研究科には、私とは異なる現場や分野で保健医療福祉について考えている方がいらっしやると思います。自らの未熟性を日々痛感するところではありますが、これからの様々な人との出会いの中で刺激を受けながら「進取」の気性に富み、「創発」を引き起こすことができるような人になることを目指し、学業と研究を深めていきたいと思っております。

最後に、私たちが「進取」の精神を持って課題に取り組み、新たな学び・発見を得るためには、諸先生方・諸先輩方のお力添えはなくてはならないものであると考えています。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

支えてくださる家族・周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、埼玉県立大学で再び学ぶことができる喜びを噛みしめ、日々研鑽を積めるよう、学業・研究に邁進することを誓い、新入生代表の挨拶とさせていただきます。

保健医療福祉学研究科（博士後期課程）
新入生代表 伊草 綾香